

2007年1月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、北欧からベーリング海にかけて負偏差が見られた。中緯度は海面気圧と同様に正偏差に覆われ、バイカル湖付近や北太平洋東部を中心とした正偏差が明瞭であった。

熱帯の対流活動は、南シナ海から北太平洋の熱帯収束帯域 (ITCZ) で活発となった。また南太平洋の熱帯収束帯域 (SPCZ) は、中旬以降かなり活発となった。インド洋では西部で活発、東部の南半球側でかなり不活発となった。ブラジル東部からアフリカにかけても不活発となった。オーストラリア北部から中部では中旬にゆっくり南下した低気圧に伴う対流活発域が、マダガスカル東方では中旬と下旬に発生したサイクロンに伴う対流活発域が分布した。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、北半球の15°N 以北では帯状の高気圧性偏差が広範囲に分布した。フィリピンの南には、中旬に西進した赤道ロスビー波に伴う低気圧性循環偏差が、メラネシアには活発な SPCZ に対応して、低気圧性循環偏差が分布した。一方、インド洋の南半球側には高気圧性循環偏差が見られた。

SOI (南方振動指数) は -0.6 と 3 か月ぶりに負の

値が拡大した。

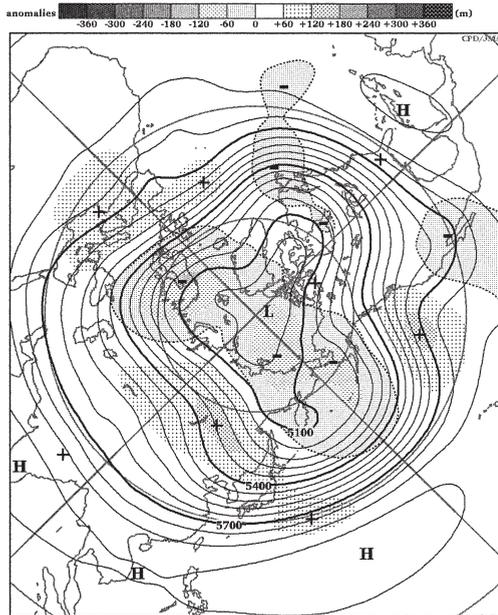
世界の天候

- ① 沿海州から日本の日本海側の少雨
- ② 東・中央シベリアから中国東北区 of 多雨
- ③ シベリアの高温
- ④ 南シナ海周辺の多雨

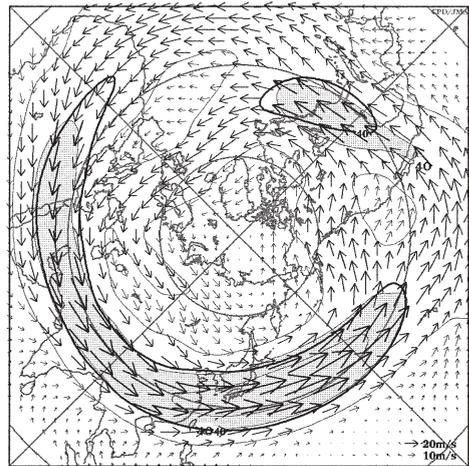
マレーシアでは中旬に、前月に引き続き洪水被害が報じられた。インドネシア北東部のサンギヘ島で中旬の土砂崩れにより20人以上が死亡したと伝えられた。

- ⑤ 太平洋中部からインドネシアの高温
- ⑥ ロシア西部からヨーロッパ中部の多雨
- ⑦ ヨーロッパ中部からアフリカ北西部の高温
- ⑧ インド洋南部の高温
- ⑨ 米国南部から西部の低温
- ⑩ ブラジル東部からパラグアイの高温

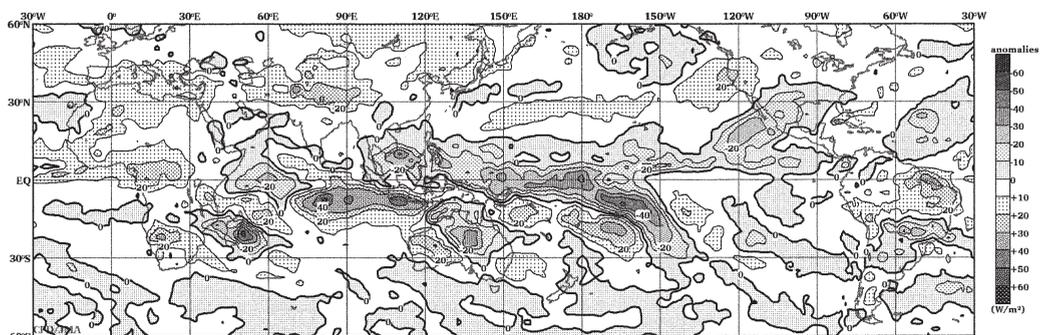
(気象庁地球環境・海洋部気候情報課 宮岡健吾)



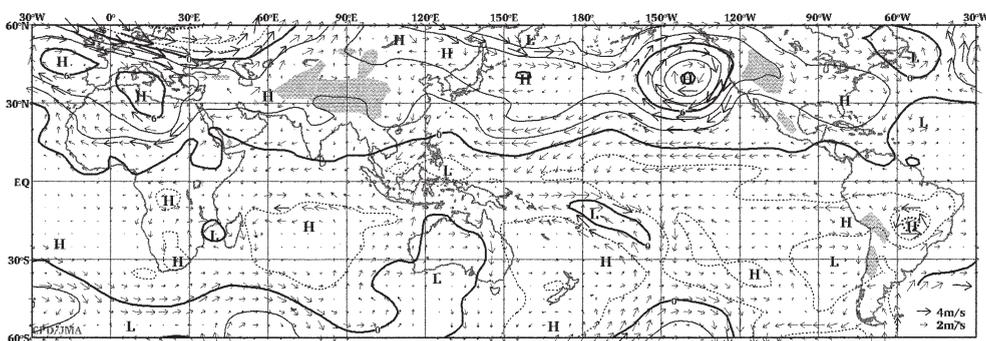
2007年1月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 陰影は平年偏差。平年値は1979~2004年のデータから作成。



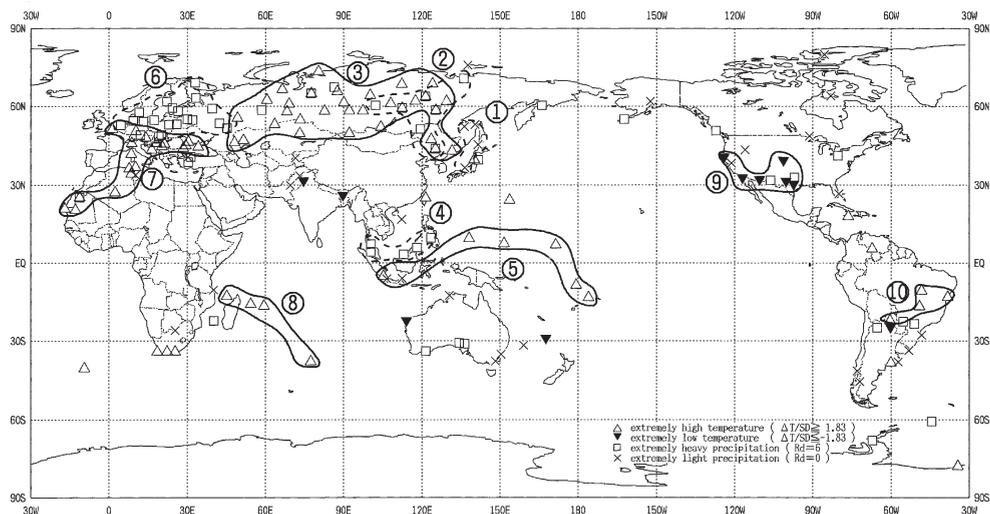
2007年1月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は40 m/s 以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s 以上の領域を示す。平年値は1979~2004年のデータから作成。



2007年1月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA、平年値は1979~2004年のデータから作成。



2007年1月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1979~2004年のデータから作成。



2007年1月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。